

平成28年度第4回府中市都市再生協議会 議事録

1 開催日時

平成29年3月16日(木) 午後2時00分～午後3時30分

2 開催場所

府中市役所4階 第一委員会室

3 出席

(会長)

塚本 俊明

(副会長)

岡辺 重雄

(委員)

有光 梨紗 皐月 利夫 渡辺 徹(渡邊寛人委員の代理)

小林 一成(加藤勇樹委員の代理) 藤枝 俊治 中村 一夫

濱崎 芳幸 宮 睦明 道下 幸治 濱中 健司

小寺 旭 廣末 邦夫(友道康仁委員の代理)

(事務局)

副市長 船尾 恭司

建設産業部長 若井 紳壮

まちづくり課長 切原 秀隆

まちづくり課都市計画係長 能島 克則

まちづくり課都市計画係主任 原田 茂幸

同主任 掛江 昌史

同主任技師 信岡 知典

同主任技師 川崎 智隼

同主任主事 瀬川 英俊

4 議事次第

1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 議事

① パブリックコメントの実施結果について

② 府中市立地適正化計画(案)について

5 議事要旨

<本日の議事録確認委員の選出>

(塚本会長)

- ・府中市都市再生協議会運営規則第6条第2項の規定により、2名の委員の方に議事録著名をお願いしたいと思います。本日の議事録の著名委員については、「市民」・「公共交通に関する事業者」のグループから藤枝委員と「関係団体の代表者又はその指定する者」・「都市計画、福祉、商工業等に関する専門的知識又は学識経験を有する者」のグループから濱中委員をお願いしたいと思います。

<議事についての質疑・意見交換>

(●●委員)

- ・都市計画審議会でも質問したことだが、再度お聞きしたい。「歩いて暮らせる」という前提で都市機能誘導区域を決めているとのことだが、府中駅には南口が無い上、自由通路も明確でない中では中心にすべきではない。平成47年には駅の北側にはほとんど人が住んでいない。人口が多いのは南側であり、府中駅を端にして南側に拠点を決めてはどうか。

(事務局)

- ・府中駅周辺では確かに人口が減っています。一方で、国道486号沿いには商業施設もあり、車を使えば住みやすい地域となっています。しかし、今後の財政状況を鑑みると公共施設の立地に関してはストックを活用していくべきだと考えています。

(●●委員)

- ・府中市出身者としての実感だが、人が住んでいる生活地域はもともとコンパクトであって、今までも特に生活しにくく感じたことはない。もともと小さな生活地域をさらに絞り込むのは無理があるのではないか。都市機能の立地する場所として高木町・中須町も含んでもよいのではないか。

(●●委員)

- ・全国的に言えば、都市をコンパクトにしなければという議論がなされている。一般にはまちが四方八方に広がっているからである。しかし、府中は山があり、川があり、広がることができなかったため、結果的に福山方面の1/4だけ市街地が拡大してきた。このため、他市に比べて大きさを小さくする必要性はあまりない。今回設定する都市機能誘導区域は、狭い地域に機能を押し込めているのではなく、単に中心市街地活性化計画など、これまでのまちづくりを踏襲しているものと認識している。ただ、もともと小さな市街地だということによって大きさを変えないことにしているものの、今後も道路整備や下水整備などの公共投資を行うことができるのか、という財政面での検討をきちんとしていくべきである。資金難で南北道路が十分に整備できない、などとなってしまうのは、元も子もなくなってしまうので、今後引き続きチェックしながらまちづくりを進めるように。

(●●委員)

- ・これまでの計画の区域と変わっていないとのことだが、これまでの既存の計画を、どのように融合させていくのか。居住誘導区域が広く設定されているが、どう整備していく

のか。また、南北道路周辺への機能誘導については保留となるのか。

(事務局)

- ・既存の各計画を融合させながら、府中駅周辺で足りていない整備を進めていきます。また、府中市の生活地域は確かにコンパクトですが、それでも福山市などの近隣市町に人が出て行ってしまっている現状を、深刻に受け止めています。どう流出を抑制していくかが課題と考えています。また、南北道路周辺については、企業立地促進制度などがありながら現状ではあまり効果が上がっていない点の改善なども含めて、来年度以降具体的に検討を進めていきます。

(●●委員)

- ・居住誘導地域は、もっと狭めても良いのではないかと、という意見である。人はどんどん中心市街地から離れ東側方面に流出している。今ある商業施設を維持していくためにも、一定の地域に人口を維持していく必要がある。

(●●委員)

- ・高木町、中須町周辺には土地があいているので、そこに機能を集積させてはどうか。

(事務局)

- ・人口減少しており、財政状況も厳しくなっていく現在の状況を踏まえると、既存のストックを移転させていくことは困難であると考えています。

(●●委員)

- ・福山市には大規模商業が集積しているために、福山方面で土地を探す人が多い。しかし府中市は、府中学園や国府小学校など教育水準が高いという強みがある。ソフト面を前面に出して、人口減少を解決していく必要がある。土地を求める段階においては、ソフト面が重要になる。

(事務局)

- ・おっしゃるように、ソフト施策と一体的に実行する必要があると考えています。総合戦略の中でも、ハードとソフト両面で取り組んでいくことを位置づけています。

(●●委員)

- ・人口を維持していくには、住んでいる人自身が自慢に思えるまちであることが重要である。一度市外に出た人が戻ってきたくなるようなまちを目指して、まちの活性化を考えていくのがよいと思う。

(事務局)

- ・おっしゃるように、若い人が戻ってきたいと思えるまちにしていきたいと考えています。備後圏域のアンケートで、府中市については「教育」「ものづくり」の評価が高いという結果が出ています。このような点を生かして、基盤を整備しながら教育や子育ての施策を拡充していく、というのが目指していきたい方向性です。

(●●委員)

- ・ソフト施策を充実させながら、まちづくりをしていくことが重要と考える。今後も取り組みに期待したい。

(●●委員)

- 最後に1点、ずっと気になっている点について述べたい。この計画は都市計画マスタープランの強化のための計画ということだが、そのためには全市的な発展が重要となってくるが、上下町についてあまり触れられていない内容となっている。補足的にではなく、もう少し上下町についてもメッセージが示せると良い。また、3章が薄いので、中心の強化に加えて、周辺に関する方針も記載していけると良い。

(事務局)

- 計画案の修正を検討します。

以上